

# インターンシップへ行った 学生の感想



このインターンシップでは、マーケティングから開発・デザイン、そして生産工程や品質管理までを実際に見たり体験する事が出来ました。これを通して、各セクションの繋がりの大切さや商品がお客様の手に届くまでの間に、たくさんの人が関わり、試行錯誤を繰り返している事を知る事が出来ました。

(生物資源学部女子学生・民間企業で実習)

グループワーク、プレゼンに関するテクニックが身に付いた。フィードバックが受けられるため、欠点を改善するために良いインターンシップと感じた。

(人文学部男子学生・民間企業で実習)

大学で学んでいる事が、社会人になってからも役に立つという事、学業とは異なる企業ならではの仕事の難しさ、そして交友を含む、働く楽しさについて学ぶ事が出来ました。また、自身が社会に出て通用する人間なのかという不安を解消できた点も有益でした。

(工学部男子学生・民間企業で実習)

社風や仕事へのやりがいを重要視していたが、それに加えて仕事と自身のライフスタイルをどのようにかけあわせていくか考えていく必要があると思った。

(生物資源学部女子学生・民間企業で実習)

食品開発という職業には、サイエンスの考え方だけでなく、食品の一連の流れを知るために、経営についての知識が必要である事を発見しました。

(生物資源学部女子学生・民間企業で実習)

インターンシップを通じて得られた事は、今まで抽象的で分からなかった市の職員の仕事が、ほんの一部かもしれませんが、具体的な仕事内容を知る事が出来た事で、モチベーションを上げる事が出来た事です。仕事を知る事でより魅力を知り、志望する気持ちが強くなりました。

(人文学部男子学生・官公庁で実習)

自分のキャリアを考える上で何を重視するかを考え直す良い機会になった。実際に社員の方から話を聞いて、就職活動に大切な事は何か、自分はどうすればもっと成長できるかを教えてもらったので、その部分を伸ばしていきたいと思いました。

(人文学部男子学生・民間企業で実習)

膨大な情報の中から伝えるべきものを選択する力が得られました。また毎日、生放送という本番に向かって緊張感をもって時間内に取り組もうとする心がけが役に立ちました。

(人文学部女子学生・民間企業で実習)

インターンシップを通じて、常に職員の方々が、報告、連絡、相談を大切にする姿勢を目にして、私自身も分からない事があればすぐに相談する事を心がける事が出来ました。また、実際に働かされている職員の方々から、福利厚生や職場の雰囲気、過去と現在の職場環境の違い、課題などについて、生の声を伺う事が出来たので、大変有意義な4日間を過ごす事が出来たと感じます。（人文学部女子学生・国立大学法人で実習）

仕事の忙しさや業務内容、人間関係、給与など、具体的なお話を伺い、自分のしたい事などを踏まえて、県庁だけではなく、他の市町村庁や他都道府県庁も調べたり、民間企業も視野に入れ、就職活動へ活かそうと思えました。

（工学部男子学生・官公庁で実習）

普段話す機会のない社会人の方々と話す事がたくさん出来たので、行く前よりも緊張しすぎずに話す事が出来るようになり、さらに生の情報も多く得る事が出来ました。

（生物資源学部女子学生・民間企業で実習）

業務体験や見学を通じて、実際に様々な分野の人がそれぞれの現場で活躍している姿を見る事が出来た。

（工学部女子学生・民間企業で実習）

職員の方とお話の中で「9割が人間関係」であると伺った。この言葉から社会では専攻ではなく、人間関係が最も重要である事を知る事ができ、文理の違いに意識を置く事が少なくなった。これから就職活動を行なっていく上で、大きな意識の変革になったと思う。

（工学部男子学生・官公庁で実習）

グループワークは一人でする事ではなく、同じチームとして課題を解決する姿勢がとても大切だと思いました。他人との会話を通して、親近感を与え信頼を得る事も大切だと理解できました。

（教育学部男子学生・民間企業で実習）

1日仕事をするという事は、集中力を途切れさせない事が大切だと知った。配属させていただいた職場では、常に様々な方と接するので対話力がより求められた。また膨大な量の仕事をこなすには体力も必要であると感じた。

（人文学部女子学生・官公庁で実習）

